

2015年度（後期）指定公募

「市民の集い開催への助成」

テーマ：「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に

～地域で暮らす・自分らしく生きる～

開催日時 平成28年9月11日（日）13時30分～16時00分

開催場所 北茨城市民ふれあいセンター（大ホール）

茨城県北茨城市磯原町本町2-5-15

主催 北茨城市コミュニティケア研究会

北茨城市コミュニティケア研究会

世話人会代表 宇佐美泰男

平成28年10月20日提出

1. はじめに

在宅ケアの業務に取り組む中で、在宅医療と介護との円滑な連携を図るには、施設間・職種間だけでなく、様々な分野で働く人達の融合、また、それが当然であるような地域であることが望まれます。そこで、思いを同じくする仲間が集まり、「地域での多職種連携」を実現しようと立ち上がったのが北茨城市コミュニティケア研究会です。発足してまだ5年目の若い組織ですが、地域の資源を生かしながら、在宅医療と介護の充実を図るとともに、市民の皆さんへの啓発に努めているところです。

これまでは、専門家から講義を受けたり、あるいは実技を学んだり、またワークショップやディスカッションを行うなど、会員のスキルアップ及びそれを通じた連携強化に努めてまいりました。

今回の講演会は、5年目の記念事業と位置付けていた市民向け企画ですが、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団からの助成をいただき、盛大に開催することができました。

2. 結果

市のホームページや広報誌、また、関係機関への広報活動が実り、初回にして180名というたくさんの皆さんにお集まりいただきました。アンケートの結果は、別紙の通りですが、参加者から、「在宅医療について初めて聞いた」「在宅で療養することに対しての不安感が薄れた」といった感想をいただき、広報活動の必要性を強く感じた次第です。

講演は、寸劇と寸劇の間に講演を挟むという構成にしました。これは、講演内容の理解を深めるという効果を期待したのですが、観客の興味を引き、大いに役立つ結果となりました。また、シンポジウムも含めた時間配分は、概ね好評を得て、充実した講演会となりました。

3. 感想

医療・介護関係者だけでなく、一般の方々、特に高齢者と同居、或いは離れて暮らしているといった家族の方の参加も目立ちました。

参加者からは、「在宅で療養することへの具体的なイメージを持つことができた」といった感想をいただき、この講演会に参加したことで、知識を深められたものと思います。

4. おわりに

想定を超える速度で進む高齢化は、私たちに様々な課題を提示しています。その一つが在宅での生活であり、尊厳をもって生きるという「在宅医療」の問題です。

住み慣れた我が家で安心して最期を過ごすには、家族はもとより、たくさんの人達の支えがなければできません。私たちは、これからも研鑽を重ね、多職種間のネットワークの強化をはかり、市民と共に在宅ケアの一層の充実に努めていきたいと考えています。

また、今回の講演会を機に年に一度は一般向けに、在宅医療や介護についての講演会や、シンポジウムを開催していきたいと考えています。

今後とも、活動に対するご理解とご協力をお願い致します。

結びに、お忙しい中ご講演下さいました北茨城市民病院附属家庭医療センター長の宮澤先生、海老原先生はじめ、ご登壇いただきましたシンポジストの皆様、そしてご来場いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」

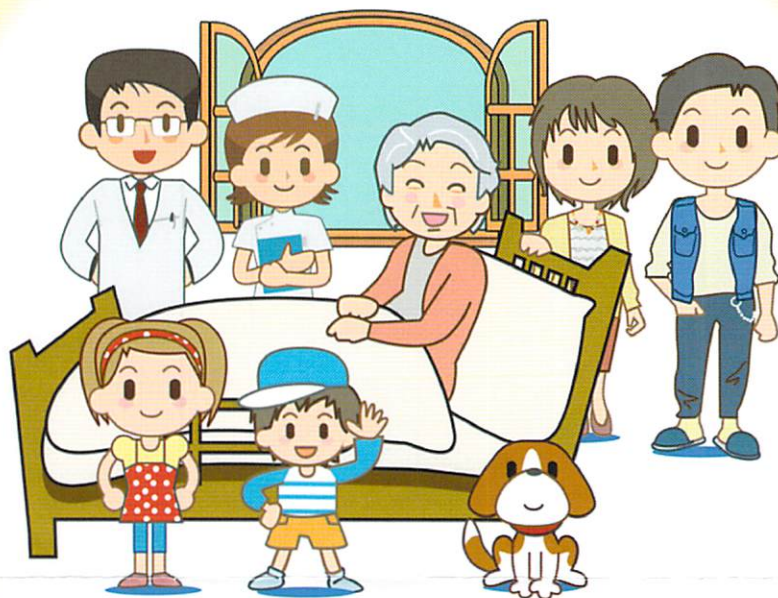
住み慣れた我が家で安心して
暮らす生活を皆さんで考えてみませんか？

講演内容

「在宅医療」を 知っていますか？

～家で最期まで療養したい人に～

講師 北茨城市家庭医療センター医師



日時

平成28年9月11日(日)

午後1時30分～ 講演・寸劇

午後2時40分～ シンポジウム

場所

北茨城市民ふれあいセンター

参加費

無料 (申し込み不要)

主催
助成

北茨城市コミュニティケア研究会
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団